

平成27年度 大阪府立大学 授業公開講座(後期)

番号	講座名	講師	曜日	コマ	定員	開講日
1	中国古典語Ⅱ	大平 桂一	月	2	5	9月28日
2	西洋文化史	中村 治	月	2	20	9月28日
3	中国の思想	大形 徹	月	4	5	9月28日
4	ゼミナール 言語と文学 (原文で楽しむフランス文学) ★	村田 京子	月	4	5	9月28日
5	文化と宗教	秋庭 裕	火	3	5	9月29日
6	ドイツ語中級CⅡ(読解) ★	兼田 博	火	3	5	9月29日
7	ソーシャルワーク概論	東 優子	火	3	10	9月29日
8	法と社会	和田 安弘	火	5	10	9月29日
9	科学と文化	斎藤 憲	水	1	10	9月30日
10	共生の思想 (ジェンダーと社会思想)	浅井 美智子	水	3	10	9月30日
11	教育社会学	西田 芳正	金	1	10	10月 2日
12	人間環境科学入門Ⅰ	牧岡 省吾	金	1	10	10月 2日
13	陸域環境生態学	中山 祐一郎	金	2	10	10月 2日
14	地域福祉論B	小野 達也	金	3	10	10月 2日

1コマ: 9時00分～10時30分 / 2コマ: 10時40分～12時10分 / 3コマ: 12時55分～14時25分  
4コマ: 14時35分～16時05分 / 5コマ: 16時15分～17時45分

**会場** 大阪府立大学 中百舌鳥キャンパス

**対象** どなたでも(全期間を通じて受講できる方) ★は受講条件あり

**受講料** 1講座 3,000円

(一旦お支払いいただいた受講料は、返金いたしかねますこと、ご了承ください。)

**申込方法** 「ハガキ」又は「Eメール」に、①ご希望の講座名、②郵便番号・住所 ③氏名(ふりがな) ④年齢 ⑤電話番号 ⑥このチラシの入手先 を記入の上、9月8日(火)《必着》までに、下記宛先へお申込みください。

◎申込者多数の場合は抽選にて受講者を決定します(結果については全員に通知します)

◎お一人様1通のみ

**申込先** 〒599-8531 堺市中区学園町1-1

大阪府立大学 地域連携研究機構 地域連携室「授業公開講座」係

e-mail: jkk27@ao.osakafu-u.ac.jp (半角英数) ※携帯メール不可

**問合せ先** TEL:072-254-9942

◎講義概要については、裏面をご覧ください



大阪府立大学

# 授業公開講座

平成27年度 後期

平成27年 9月28日(月)～平成28年 1月29日(金)

各15回(予定)

この授業公開講座では、本学の授業科目の一部を一般の皆さまに公開し、学生とともに授業を受けていただける講座となっております。皆様のご参加をお待ちしております。



※お申込の際の個人情報、申込後の事務連絡、統計資料等の作成及び本学公開講座等のご案内に使用いたします。利用目的以外の使用については、一切いたしません。

公立大学法人  
大阪府立大学  
OSAKA PREFECTURE UNIVERSITY

公立大学法人  
大阪府立大学  
OSAKA PREFECTURE UNIVERSITY

## 平成27年度 大阪府立大学 授業公開講座(後期)【講義概要】

講座番号 1:「中国古典語Ⅱ」(高等教育推進機構)	大平 桂一 教授
---------------------------	----------

中国古典を講読しつつ中国古典語の読解能力の更なる向上をはかります。中国古典読解に必須であり、また現代中国に対する理解を深めるために役立つ中国文学史、文化史、学芸史に関する知識についても学びます。今年度は特に中国文学史における詩の歴史に注目し、歴代の作品を総まくりで読みます。詩経、楚辞、漢代の楽府、魏晉南北朝の詩、唐詩、宋詩、宋詞、明詩、清詩、現代詩を取り上げます。なお講読は中国語及び漢文訓読法をもちいて行います。大平が作成した「中国語発音マニュアル」を用いて中国語の発音の基礎を身につけて頂いた上で、原文を中国語で音読いたしましょう。そうすることによってベルクソンが主張するように、作者の思想やそれを書いた時の精神状態に肉迫できると考えています。

講座番号 2:「西洋文化史」(現代システム科学域／地域保健学域教育福祉学類)	中村 治 教授
--	---------

リン・ホワイト・Jrの「現在の生態学的危機の歴史的根源」などを読むことにより、キリスト教と環境問題の間にもどのような関係があると指摘されているのかを見たらうえで、その指摘が妥当かどうかを、「創世記」に関するアウグスティヌスやトマス・アクィナスの解釈、ニコル・オレーム、フランシス・ベーコン、デカルトなどの思想の検討、『中世の産業革命』『自然と人間』などの研究書を読むことによって考察し、人間と動物の関係、キリスト教と環境問題の関係について考える。

講座番号 3:「中国の思想」(高等教育推進機構)	大形 徹 教授
--------------------------	---------

孔子や孟子の儒家、老子や荘子の道家、墨子の墨家、韓非子の法家など個人の考えたすぐれた思想について概説する。同時に中国の人々が知らず知らずのうちに形成していった、いわば中国人全体の思想ともいえる死生観や魂魄概念(魂魄はどこにあるのか、魂の語源、肉体をぬけだす魂と髪型との関係、坐忘、体内に入りこむ悪霊、侵入する鬼霊、疾病観と魂、悪霊をはらう方法)などについても考察する。

講座番号 4:「ゼミナール 言語と文学(原文で楽しむフランス文学)」(高等教育推進機構)	村田 京子 教授
--	----------

南仏プロヴァンスを舞台にしたジャン・ジオノの代表作『木を植えた男』をフランス語の原文で読んでいきます。一人の羊飼いが生涯をかけて、破壊された土地を森に変えていく話がドキュメンタリー・タッチで描かれ、彼の小説は世界中で読まれています。この物語をアニメーション化したフレデリック・バックの作品も話題を呼びました。平易なフランス語テキストなので、文法事項を復習しながら、ゆっくり味わって読んでいきたいと思います。また、シャンソン教材も活用して異文化理解を深めたいと思っています。

【教科書】ジャン・ジオノ『木を植えた男』第三書房
★受講は、フランス語初級程度を修得した方に限ります

講座番号 5:「文化と宗教」(現代システム科学域)	秋庭 裕 教授
---------------------------	---------

【目標】日本宗教の「救い」を考察する。21世紀、グローバリゼーションが刻々進展する時代にあって、私たちの文化伝統の屋台骨をなす宗教文化を見つめ直すことは必須不可欠である。それは「21世紀、東アジアの片隅で生きる私たちは、いかに幸福に、死ぬことができるかを、理論的に問う」ことでもある。
【概要】・一神教と多神教・宗教と呪術と科学・民俗宗教と教団宗教・新宗教／新新宗教／スピリチュアリティの興隆・日本宗教の「革新」・海を渡る日本宗教　・21世紀における日本宗教の「可能性」

講座番号 6:「ドイツ語中級CⅡ(読解)」(高等教育推進機構)	兼田 博 教授
---------------------------------	---------

アルベルト・シュヴァイツァー博士(1875-1965)は第一次世界大戦後のアフリカ大陸で活動し、「密林の聖者」と呼ばれました。またオルガン奏者、キリスト教学者としても有数の人でした。彼がペリカンの口を借りて物語った「ペリカンの生活と意見」は、読み物としてたいへんおもしろく、また博士の人道主義が感じられます。ただし、白人優位思想が感じられなくもありません。この講座では本書をドイツ語原文で読み、ゆっくり日本語に直していきます。独検4級程度のドイツ語能力が必要です。後期は前期のつづきとなります。

【教科書】シュヴァイツァー『ペリカンの生活と意見』(プリント配布)
★前期に受講された方のみ申込み可能です

講座番号 7:「ソーシャルワーク概論」(地域保健学域 教育福祉学類)	東 優子 教授
------------------------------------	---------

社会福祉援助技術の入門科目として位置づけられる本講義では、地域でさまざまな相談援助活動に取り組むゲストスピーカーによるリレー・トークに耳を傾け、以下についての理解を深めることを目的とする。①社会福祉士の役割(総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発含む)と意義について、② 精神保健福祉士の役割と意義について、③ 相談援助の概念と範囲について、④ 相談援助の理念について、⑤ 相談援助における権利擁護の意義と範囲について、⑥ 相談援助に係る専門職の概念と範囲及び専門職倫理について、⑦ 総合的かつ包括的な援助と多職種連携の意義と内容について。また、他者・相談援助に取り組む基本として、学生が自分自身(および価値観)と向き合うことを目的とするため、基本は講義形式だが、部分的にグループ・ディスカッションを実施する。

講座番号 8:「法と社会」(高等教育推進機構)	和田 安弘 教授
-------------------------	----------

法とその周辺の諸概念(法律、権利、紛争、裁判など)を、社会との関係において、正確に理解できるようになることを目標におき、具体的な事例とともに法現象の様々を考察する。そのためにまず、社会とそれを構成する諸個人の相互規定的な関係から考察を始めて、そこに発生する社会規範・ルールの機能と形態についての理解を深める。さらに、法を中核とする社会秩序の維持と再生産の構造、紛争と紛争処理のモデルと実態、権利観念の実証的理解、などのテーマに分け入って考察を進めていく。教養科目であることを考慮しわかりやすさを重視するが、TV番組の法律相談のような内容とは異なるので注意されたい。

## 平成27年度 大阪府立大学 授業公開講座(後期)【講義概要】

講座番号 9:「科学と文化」(高等教育推進機構)	斎藤 憲 教授
--------------------------	---------

16世紀から17世紀の近代自然科学の成立の中で、とくに天文学に焦点をあてて、地球中心説(天動説)から太陽中心説(地動説)への転換を検討します。古代の宇宙論を概観したあと、地球中心説に基づく天文学系を集大成したプトレマイオスの『アルmagest』を検討し、実際に太陽や惑星の位置決定のための計算の詳細を見ていきます。近代の太陽中心説は1543年に刊行されたコペルニクスの『天球回転論』に始まりますが、これも実はプトレマイオスと同様の計算技術に基づく著作です。こちらも通常読まれることのない第2巻以降の計算の細部を検討し、しばしば「革命的」と言われるコペルニクスの理論が、プトレマイオスの計算技法の上に展開していることを確認します。最後に、コペルニクス説がどの点において天文学者に評価されて、発展していったかを概観します。

講座番号 10:「共生の思想(ジェンダーと社会思想)」(現代システム科学域)	浅井 美智子 教授
--	-----------

ジェンダー研究は、従来女性解放思想から生まれてきたものではありませんが、今日では、既存の多くの社会科学が「ジェンダー」をその研究フレイムとして取り入れています。本講座では、西欧近代思想が開示した、民主主義思想を「契約」と「正義」の観点から問い直します。近年、共同体における正義、すなわち公共において何が公正で正しいのかを問う「リベラリズムの正義論」が展開されてきました。この正義論に対して、「家族にその正義は届くのか？」という異議申し立てがなされるようになりました。本年は、契約思想を展開したジャン=ジャック・ルソーの思想をジェンダーフレイムから問い直し、現在、家族や共同体における正義がどう問い直されているかについて考察します。

講座番号 11:「教育社会学」(地域保健学域 教育福祉学類)	西田 芳正 教授
--------------------------------	----------

社会の新しいメンバーに必要とされる資質を身につけさせる営みと、その組織的な働きかけである学校教育の姿、それらを経験しつつ大人への途をたどる子ども・若者の姿は、社会の変化とともに大きく変動し、さまざまな問題状況を生み出している。授業の前半では、社会化についての基本事項を確認し、学校が登場する以前の伝統社会における社会化(子育て)の仕組みとその特徴を整理する。その知見を参照枠としつつ、現代社会における家族・地域社会における子どもの成長とその問題性を検討し、授業後半では学校教育に視点を移す。その際、近年注目を集めつつある格差・貧困・社会的排除と学校教育の関連に焦点を当て、不利な環境のなかで生育する子ども・若者が経験する学校における排除のメカニズムを検討する。併せて、排除に抗する学校・教師の事例を紹介し、排除型社会としての性格を強めつつある今日の日本において求められる学校教育の在り方について考えたい。

講座番号 12:「人間環境科学入門Ⅰ」(現代システム科学域)	牧岡 省吾 教授
--------------------------------	----------

人の行動や行動の背後にある心のはたらきについて概説する。発達、学習、記憶、視覚、聴覚、思考、推論、言語など、心の様々な側面に焦点を当て、これまでに解明された様々な知見を紹介し、心の基本的な仕組みについて理解していく。学問分野としては主として心理学を扱うが、必要に応じて動物行動学、分子生物学、神経科学、言語学など、他の分野の知見も取り入れながら解説する。受講にあたって心理学に関する予備知識はとくに必要ない。授業中に簡単な実験を行う場合もある。テキストとして下記の書籍を使用する。
鹿取廣人・杉本敏夫・鳥居修晃(編)心理学[第5版] 東京大学出版会

講座番号 13:「陸域環境生態学」(現代システム科学域)	中山 祐一郎 准教授
------------------------------	------------

人間の生存にとって不可欠な生態系サービスの理解、健全な生態系の維持と生物多様性の保全を実現するために必要な科学的知識の習得ならびに価値観の養成を目標にしています。この科目では、生物の生活と環境との関係が理解できるように、生態系の構造と機能、生物の環境形成作用、生物種の環境に対する適応、個体群動態と種間の相互作用、生物群集の構造と多種共存機構について講義します。さらに、陸域と淡水域の様々な生態系について、その成り立ちと現状を具体的な事例をもとに説明し、生態系リスクの評価と管理の基礎を習得できるようにします。具体的には、以下の項目について講義する予定です。生態系と生態学の構造、生態系における種の機能、生活史の適応進化、生理生態的特性の適応戦略、動物の行動と社会、個体間相互作用と個体群の動態、生物群集と生物間相互作用、遺伝的多様性とメタ個体群；森林の生態系、草原・湿地の生態系、高山の生態系、河川・湖沼の生態系、農耕地の生態系、都市の生態系、生態系リスクと持続可能性。

講座番号 14:「地域福祉論B」(地域保健学域 教育福祉学類)	小野 達也 教授
---------------------------------	----------

地域福祉論Bでは、地域福祉の実践の担い手やその進め方について学びます。地域福祉の推進には、さまざまな主体が関わり、多様な活動・事業が展開されています。地域での動きをどのように整理し、理解し、支援することができるのかを考察します。具体的には、行政や社会福祉協議会、NPO、住民などの実践主体を取り上げていきます。また、地域福祉では、公私関係や組織化活動ということが重要であり、かつ、近年では地域での個人支援も進められています。こうした地域での援助活動についても学ぶほかに、そうした活動を支える仕組みについても検討します。地域での実践に関心のある人の参加をお待ちしています。